

歳入と歳出の均衡を図った健全財政

5年間の財政収支と借入金返済見込み

市では、5年間の財政収支見込みを定めています。策定に当たっては、正確性を第一に考え、事業を行ううえで支障がないようなものとしています。今月は、狭山市駅西口地区整備事業費を含めた、今後の財政収支見込みとともに同事業の借入金の返済見込みをお知らせします。

財政収支見込み

5年間の財政収支見込みは、狭山市駅西口地区整備事業以下西口整備事業（こ）をはじめとしたさまざまな事業を続けても、健全性を維持していくことが可能である

■5年間の財政収支見込み(表1)

歳入 (単位:百万円)					
項目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
市税	22,765	23,195	23,132	22,623	22,583
交付金等	4,742	4,546	4,556	4,539	4,539
分担金負担金	482	482	478	476	475
使用料手数料	800	852	852	921	921
国県支出金	6,433	7,334	6,402	7,142	5,518
市債	3,045	3,152	2,905	2,722	1,785
その他	4,713	3,408	2,981	3,387	3,201
歳入合計	42,980	42,969	41,306	41,810	39,022
歳出 (単位:百万円)					
項目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
人件費	11,581	10,880	10,779	10,641	10,676
扶助費	6,782	6,905	7,069	7,319	7,568
公債費	4,426	4,578	4,472	4,293	3,816
物件費等	8,655	8,505	8,526	8,636	8,657
投資的経費	6,470	6,907	5,059	5,434	2,394
繰出金	4,082	4,276	4,490	4,576	5,000
その他	984	918	911	911	911
歳出合計	42,980	42,969	41,306	41,810	39,022

■西口整備事業費の市負担額の財源内訳(表2) (単位:億円)

年度区分	17年度までに支出済	18年度で予算化済	19~23年度予定分	計
市負担金額	20	27	137	184
財源内訳	地方債借入金	7	7	37
	都市機構借入金	0	3	73
	一般財源	13	17	27

西口整備事業で市が負担する金額は、約184億円です。その財源内訳は上記のとおりで、19年度以降の負担分は、約137億円です。また、財源別にみると、地方債と独立行政法人都市再生機構からの借入金は約127億円で、この返済分の支出は後年度となります。このため、市が必要とする一般財源は約57億円で、今後の5年間では約27億円です。

地方債借入金は、政府資金などの借入金で、市の歳入予算に計上し、返済は後の歳出予算の公債費として支出します。都市機構借入金は、都市機構が事業費を立て替えて公共施設などを施工するもので、事業期間内での市の支出はありませんが、事業費は、公債費に準じ後の歳出予算の償還金として返済します。一般財源は、税収や基金積立金の取り崩しなどです。

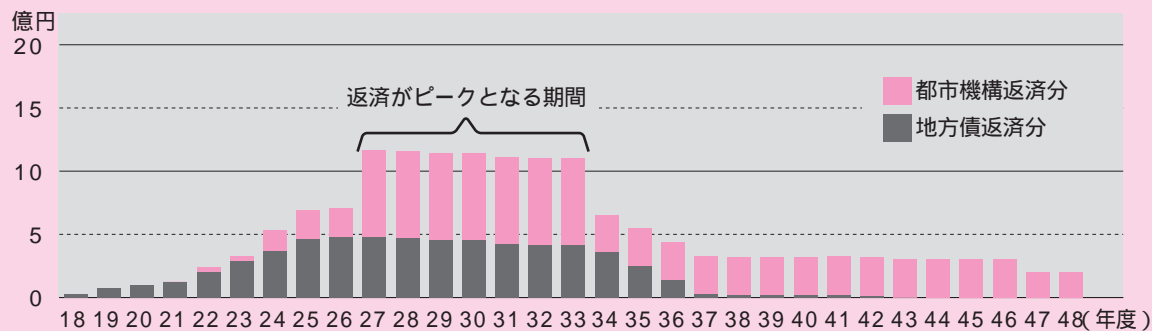
● 収支の均衡を図るために
財政収支見込みの収支の均衡を図るため、不要となった市有地を売却するなどして歳入を増やしていくことや、人件費などの抑制や事業の見直しを行い、歳出を削減していく、行財政集中改革プラン」を積極的に推進していきます。

● 財政収支見込みは毎年見直し
財政収支見込みには、平成23年度までを事業期間とする西口整備事業で、市が負担する費用のほとんどが含まれています。また、歳入の過大な見積りや、少子高齢化などによる財政需要の高まりにも注意し、堅実なものとしています。

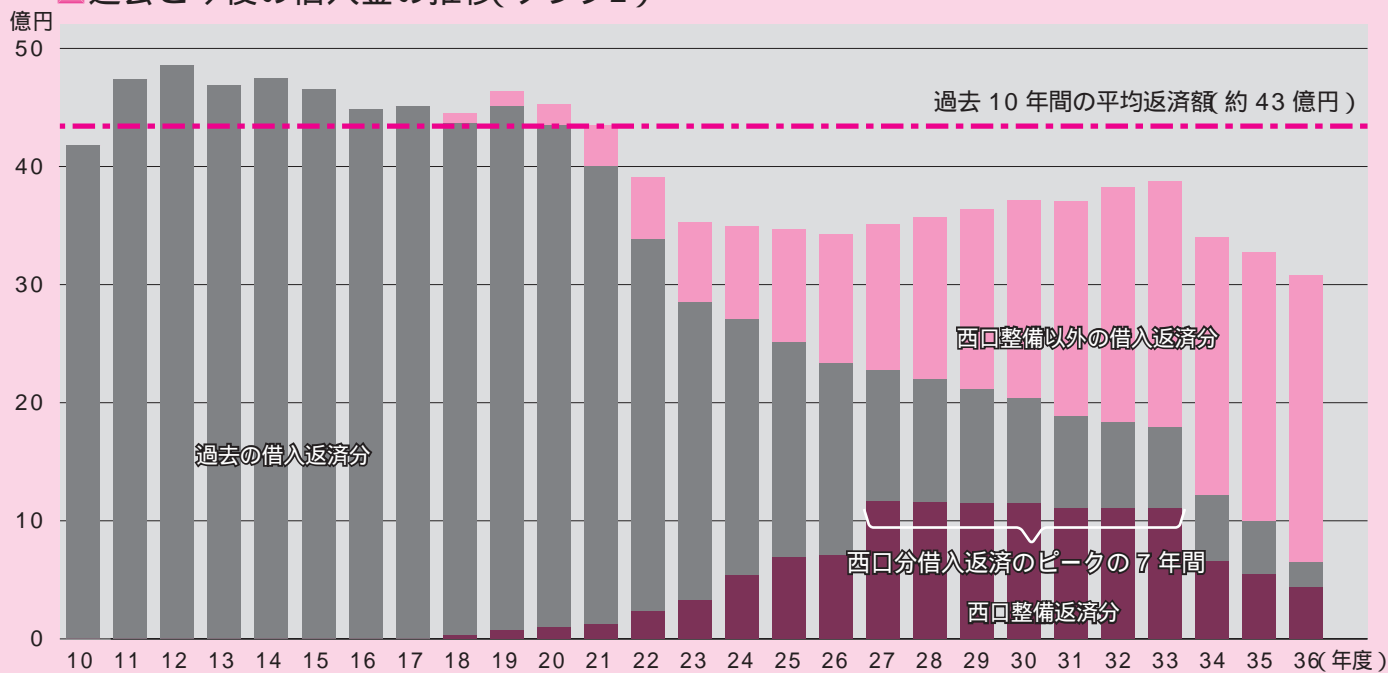
● 新たな税の負担はありません
西口整備事業を行うために、新たな税負担が増えるかと心配する声もありますが、税は基本的に市町村が独自に上げたり下げたりするものではありません。この事業を行うために税負担が上がることはありません。

● 財政収支見込みは毎年見直し
財政収支見込みには、平成23年度までを事業期間とする西口整備事業で、市が負担する費用のほとんどが含まれています。また、歳入の過大な見積りや、少子高齢化などによる財政需要の高まりにも注意し、堅実なものとしています。

西口整備事業に係る借入金返済(グラフ1)



過去と今後の借入金の推移(グラフ2)



借入金返済見込み

今後5年間の財政収支見込みでは、収支均衡が図られ、西口整備事業を進めても心配ないことがお分かりいただけたと思います。

次に、地方債と都市機構からの借入金の返済が、市の将来の財政を圧迫しないという点についてご説明します。

返済額のピークは7年間

市が、今後西口整備事業の借入金の返済をしていく額は、約127億円(表2)で、返済期間と毎年の返済額は、グラフ1のとおりです。平成48年度にすべての返済が終了となります。そして、地方債と都市機構への返済のピークが重なる27年から33年の7年間は、約11億円と最も多くなりますが、以降は大きく減少していきます。

19年度以降、返済額は減少

これまで市では、建設事業などを実施するにあたり、多くの借入れを行ってきました。そしてグラフ2のとおり、過去10年間の返済額の平均は、約43億円を超えています。しかし、この返済額は、平成19年度を境に急激に減少していきます。また、西口整備事業以外の建設事業などで、今後も借入れを予

定する必要があり、過去の借入れ実績を参考に、過少な見込みとならないように積算しました。

その結果、これら全ての返済予定額を合計したものは、40億円を下回ります。

今後の返済額は

過去の平均返済額を下回る平成21年度以降の返済額は、過去10年間の平均の返済額を一度も上回ることなく、大きく下回る額で推移する見込みです。西口整備事業の返済がピークとなる27年から33年までの7年間でさえも、その平均の返済額は、過去10年間の平均の返済額を6億5千万円ほど下回ります。

近年の返済額と比べても、今後の返済額は、減少していくことが明らかであり、決して過大な負債ではないと判断できます。このことから西口整備事業による借入れは、市の将来の財政を過度に圧迫するものにならないと考えています。

財政状況を公表します

平成17年度決算と18年度上半期の財政状況を11月1日から19年1月31日まで、市役所2階行政資料室、出張所で公表します。

問合せ財政課へ

内線7112